

ら釋然たるものあらん。吾人は宗教以外の方面に於て感情の發達の強健なる意思と並行する事を認定するに躊躇せず。特に多少感情の不變の状態なる通常氣風と稱するものに於て然り。而して此等氣風の如きものに於ける意志の勢力は意外に深く且遠くして、其實際の程度を定むる事難し。意思が其最善なりとするものゝ爲めに決定し、且之を導ひて變らざる愛情を之に注がしむる事は、之を感情の側面より見るも決して其純粹を損傷せず。吾人の宗教的經驗は吾人の思ふよりは遙かに多く訓練に屬す。而して其經驗が時代と團體と宗派の異なるに從ふて甚だ異なるは、他の理由よりは多く之に基くなり。其性質、其強度、其永續は心の態度(即ち意思)に依つて定ること多ければなり。社交的生活に於ても亦然り。或家族には愛情の満足なる表徴なく、從つて之れ無ければ存せざる或快樂無き爲めに何となく寂寞の感を免れざるものあり。又或家族にては其家庭の空氣美はしき精神に充ち、そのものごいふるまいにも、互に語る言にも愛のこぼるゝものあり。兩者の懸隔春秋も嘗ならざれ

ども、必ずしも彼に愛なくして此に愛あるにあらず。兩者の相違は自然の性質の其よりは寧ろ訓練の相違にあり。こは獨り家庭の事のみならず一層大なる社交の關係に於ても然り。而して宗教的生活亦此法則に漏るゝ事なし。食卓に於ける感謝の祈は小兒に感恩の表情の適當なる形式を與へ、其心を導ひて吾等の祝福の源を思はしめ、斯くて感謝の情を發達せしむ。殊に其用語明白にして真情より出で且清新ならしめば、其効大なり。家庭の禮拜も亦敬虔に充てる其態度と用語は、兒童の信仰心と禮拜心を發達せしめ、應て恒久不變の感情とならん。小兒は早晚家庭の關係を離れ教會と宗教的團體の一層公共的なる關係に入らざるべからず。而して彼等の宗教的感情は茲に新たに鑄造せらる。又或意味に於て擴大せらる。此事に關して實際的の意義頗る大なる二の問題あり。一は小兒の公式的に教會に加はる適當なる年齢にして、一は之を行ふ最良の方法なり。第一の問題に關しては予は十二歳を最も適當なる年齢なりと思惟す。昔時のユダヤ教會に於ては其齡を約そ十四歳とせり。さ

れごこは必ずしも拘泥すべきにあらず。斯は唯概則を示せるのみ。而して之を爲す最善の方法に關しては、世に「決心日」と稱せられたるものほご。實驗を経たるものなし。約そ三年前予は此題目を有する小冊子に就て、斯る重要にして貴むべき時期の左る不適當なる名稱を有するに至れる遺憾を表白したりき。是れ實に誤れる名稱なり。予の見る所を以てすれば之を「公表日」若しくは「献身日」とすること、寧ろ其時期の眞實の意義を表はすものあらん。若し正當に之を成さば事實眞に然ればなり。

此日をして最善の効果を擧げしめん爲めに以下の數項備はらざるべからず。(一)此日を莊重にして且印象深からしめざるべからず。其儀式を完全に且秩序あらしめん爲めに充分なる時間を之に充つるを要す。其儀式は特に小兒と神と彼等の關係に關する聖書の部分の朗讀と、前以て選ばれたる歌と、祈と、教訓的獎勵的の短き説教より成るべし。即ち約言すれば眞實に教訓的に且傳道的ならざるべからず。(二)

此場合には幼稚なる初歩の組をも漏らさず、全校之列すべし。其招待は予が前に記せる年齢のものと、特に之が爲めに前以て訓練せられたる學級とに限らず、出来る丈廣き範圍に及ぶべし。予が曾て目撃せし此儀式の最も興味深かりしものは、日曜學校より五十六人一時に教會に移り、齡僅に七歳の花の如き幼女より六十歳以上の白髮の老人に至るまで列席せしものなりき。(三)牧師、教師、兩親は之が準備に大に力を用ゐざるべからず。其選擇教師會にてせらるゝ時も、又教師と校長に依つてせらるゝ時も、其接待の教師は特に意を其選ばるゝ生徒に注ぎ、彼等の爲めに祈り又彼等と共に祈るべし。兩親には又其事の性質を明らかに知らしめ、彼等をも同じ目的に力を盡さしむべし。而して牧師は組々より選ばれたる此等の小兒を一處に集め、個人的宗教の性質と要求に付て懇々説き示すべし。而して若し能ふべくんば之を導いて充分なる宗教的經驗に達せしむべし。「献身日」の前に充分に之を爲す能はざれば、其後絶へず凡ゆる手段を以て之を導かざるべからず。是實に有効なる

牧會傳道の最善の機會なり。

此の如く「献身日」に對して意を用ゐること深く、且事を爲すに鄭重なれば、一は此場合に於ける感情の鼓動を、教訓と確乎たる目的に依つて支へられざる熱情の翻弄に委する事を拒ぎ、一は其齡に達せる兒童をして其時に望んで勵み且力め彼等をして其受けし宗會的教訓を活用せしめ、且家庭と學校に於ける彼等の行爲に大なる影響を與ふ。此儀式の後には直ちに之を教會員となすべし。世には少年を教會員となすことこの賢き道なるやを疑ふものあり。而も予の見所を以てすれば反對論の基礎一も強固ならず。予が説ける齡と事情の小兒は、立派に教會員たる凡ゆる理由を具備すればなり。自から辨識して進んで奉仕の誓をなすこと、斯くして一層廣き宗教的團體と意識的自動的の關係に入ること聖靈典に與ると、規則正しく單純なる祈禱を自から爲すこと同じ心の一團の民の中に於ける社會的關係の確實になりたること、教會の政策と目的等を研究すると等々は靈的生命の生長を助くること何者も之

に如かざるものなり。此等は不利益なる事情と關係の生ずることを防ぐと靈的生活の特質と習慣を作るとの二重の意味にて教育的なり。

世に小兒を教會員とする事を以て、改悔ざる多數を教會に導き入るゝ恐ありとするもの少なからず。斯は此事に含まれたる勢力をも事實をも見ざる意見なり。蓋し宗教的經驗に於ける人事の側面は、神の恩寵を愛くる正しき個人的態度を作くるに在り。神の恩寵に對する人の心情は宛かも日光に浴せる神殿の如し。神殿の戸や窓の閉ぢられたる間は固より暗黒なり。されど一度其窓戸にして開かるれば、開かるゝに従ふて光は内に注ぎ入る。此の如く如何なる齡にても人は其心情を神に向つて開けば神の恩寵は忽ちにして注ぎ來り、天來の勢力は救の神の經論を全うす。されば教會に入れるもの暫時は神との交際の經驗に達せずとも、尙遂に光に導かるべき絶好の位地にありと謂ふべし。教會は吾人の信する如く、神が救の恩寵を人に與ふる重なる機關なりとせば、又其會員は世上唯一の道德上の貴族、即ち基督者品

性の所有者の団体なりとせば、茲處にのみ宗教の真理に關する最良の教訓と、純潔にして且又全く己を捧ぐる生活の最高の刺激存すとせば、其中に加はるは救に入るべき最善の位地に立つものにあらずや。然るに長く教會以外にあり、俗界の空氣を呼吸し、何等宗教的傾向を有せざる社會にあるを以て、教會にあるよりは一層宗教的義務的生活に益ありとするは、よし没道理ならざるも亂暴なりと謂はざるべからず。教會存在の目的は救てふ語の有らゆる異なる意義に於て人を救ふにあり。是れ聖靈が神の言葉と凡ての機關を用ひ初めは悔改と信仰を起し、後完全なる宗教的性格の有らゆる果實を生ずる所以なり。

三、第三は與ふる事の訓練なり。真正なる慈善は與ふる事と仕ふる事にあり。後者は次に論すべく今は唯前者に就て説く所あらんとす。人は神の家宰にして一切の所有は神より預れる者なりとは新約聖書の教にして、小兒は自然の方法を以て容易に之を教ふる事を得べし。而して之を教ふる機會は兩親及教師の前に常に存し、其位

置は小兒に對する印象をして特に深からしむ。此豊富なる教訓の機會を見出し得ざるは非常なる遲鈍なりと謂はざるべからず。且此教は基督教の根本教理にして、之れ無くんば基督教の教無き事を忘るべからず。基督教の根本的事實は其創立者たる基督の己を人に與へし事なり。第二は人は他人の爲めに己を與へざるべからずとの教なり。幸にして慈善の實際的方面に於て傳道てふ大慈善第一位とせらる。予が幸にと言へるは傳道てふ事は概括的にして適用の範圍廣く、主義と活用に於て基督者救助の凡ゆる形を其内に包擁すればなり。青年も小兒も其然るを知る事易々たらん。而して之が爲めに凡ての傳道事業の性質と目的に就て、彼等が正しく教へられざるべからざる事は、固より言を待たず。

單に與ふる事は假令組織的なりとも、之と相伴へる其事業の義務と目的に關する識見智慮の生長なくんば、品性を發達せしむる効果の多分を失はん。現時の青年の多數の中に存する傳道事業の重なる缺點は完全にして秩序立てる教訓の欠けたるが

爲なり。予の見る所を以てすれば基督の王國の將來の發展の爲めに、教會が根本的に一層精密に觀察するを要するもの、恐らくは之より甚しきは無からん。而して若し萬國日曜學課委員にして毎年少なくとも二大傳道的學課を作らば、世に大なる益あらん。而して日曜學校の六ヶ年の學年の間に此大なる教の凡ゆる方面を教ふる爲めに、全聖書を綿密に研究して其中より十二章を選択すべし。且此等の章は傳道的教訓を幫くる出來事若しくは暗示にあらず、眞に傳道的教訓の本文たるものにして、之を中心として學課を組み立て、且之と相結びて傳道に關する多の事柄を教ふるに足るものたるを要す。而して之を有効ならしめん爲めに次の四ヶ條を實行すべし。

(一) 日曜學校文學に出來得る限り精選せる傳道者の傳記を加ふること (二) 傳道會社に依つて供給せられたる傳道者に關する事物の利用 (三) 全校の前に於ける簡單なる傳道者の活訓練 (四) 教訓的鼓舞的なる要素に充てる傳道的畫策を屢すること是なり。

與ふる事の手續も亦重要なる條項なり。與ふることが眞に教育的となり且單に金錢の寄附のみにて善良なる結果を生せしめんごせば須らく組織的なるを要す。即ちその一の習慣となり強く品性に影響せん爲めに此事最も必要なり。其組織は以下の方法に依つて達せられん。(一) 各日曜學校を以て一の傳道會社若しくは傳道體となし、學校の役員を以て又會社の役員たらしめよ、此は兩者を打つて一丸とすることにて、學校に入るは傳道會社に加はる事となる。教會は全体として傳道事業をなすよりは、多くの特種なる組合に依つて傳道の大興味を致養せざるべからず。(二) 各日曜學校は一ヶ年の最低献金高を知らん爲めに、其人數と献金力の精密なる調査をなすべし。(三) 各組は其總額中より其組の負擔額を定むべし。斯くして此事業は組中の一個人の問題となり、組の中に於て己の爲し得べき分け前に對する個人的義務の感覺を強く惹き起すべし。(四) 一定の日を傳道献金の日と定むべし。毎月一の日曜日をそれとするは最善の方法ならん。但し第五日曜日を擇ぶべからず。(五) 學生は少なくとも

其献金の一部を自己の勞力を以て得るよふ奨勵せられん事を要す。小供が集金の時を記憶して兩親の許に行き金を乞ひ、之を學校に携へ來つて献金籠に入るも、小兒の傳道的精神の自現たるを失はず。然れども未だ充分ならず。最善の教育的効果は學生自己の働きて献金の道を得る事に依つて得らるべし。畢竟神の要むる所は吾等の金にあらず。吾等自身なり。吾等の金は神と人に對する吾等の愛の表號としてのみ禮拜として神に受け入れらるべし。而して此外尙多くの慈善事業あり。此等凡べてに日曜學校は與るべし。而して之を爲すには上に予が示せる一般計畫に依るべし。此等の小兒は數年ならずして成長せる民となりて彼等の兩親が爲す所を爲すに至るべく、其時に當り彼等が如何に之を爲すべきか、彼等の手によりて如何なる興味の起り來るべきかは、日曜學校に於ける訓練如何にあり。

日曜學校は書籍其他の費用の一部を自から負擔するは甚だ妙ならん。一年に一日若

しくは二日の聖日は特に此目的の爲めに用ゐらるべし。然れども日曜學校の支持は殆んど全く教會の負擔たるべく、日曜學校自身の負擔たるべからず。日曜學校が幾分か教會を助くるは、日曜學校の上に道德的効果少なからざるべく、而して教會が其義務を認識し之を果す事の教會に生ずる道德的結果は擧げて數ふべからざるものあり。

四、次に訓練すべきは事なる事なり。日曜學校々長にして心を用ゐる事深からば、學生をして神に事ふるの誠を以て人に事へしむべき多の機會あり。彼等は或は貧窮者に施與を携へ行き、病者に花を齎らし、愛する者を失へる人に哀悼の辭を傳ふの使者たらん。予が曾て住ひし處の邊に一人の盲目なる男兒あり、彼は己が家にて或有用なる器具を製造して己が身を支へしが、手工にては其得る所生活の費用を充分に支ふるに足らず、七十五弗より百弗に價する小さき器械をだに得ば、生活の費用を得る事易々たれども、之を購ふべき資力なく、途方に暮れしが其地の日曜學校

の少年等彼の窮状を知り、互に相謀つて自から金を得るの道を講じ、幾程もなく其器械を購ふに足る金を得て之を盲兒に送り、其生活を裕かならしめたり。此自活の奨励は救助の最も策を得たるものにして、徒らに施與をなすに優る事萬々なり。又或處に老いたる夫婦あり、いぶせき家に住ひて辛き煙を立てけるが、僅かなれども負債を有し、之が爲めに日夜心を安ずる暇なかりしが、慈悲の心深き若干の小童之を知りて、人識れず日々若干の金を貯蓄し、幾月かの後に遂に老人夫婦の爲めに負債を償却し、其餘生を安らかにせり。此等の場合は何時も世にある事にはあらざらんも、稍之に類せる事は世に多く、救を要するもの少なからず。小兒をして之を爲さしむる事は其心情を耕やし其品性を高尚ならしむるの道なり。

五、小兒は禮拜に訓練せられざるべからず。眞實なる禮拜の基礎は言ふまでもなく神に對する眞實なる崇敬なり。神の喜び給ふ禮拜は靈と眞理をもてせざるべからず。されば禮拜は靈と心の事にして、よし如何に莊重精緻なりとも、單なる形式は

禮拜にあらず。然れども或種の教訓と幾分の形式は、小兒と青年を神に事ふる事に訓練せしむるに必要欠ぐべからず。形式は文字通りに禮拜の形に過ぎざれども、禮拜的態度と感情の表現を助け、神に嘉みせられ人の徳を建つる禮拜の要素を養成するの効あり。小兒は其禮拜に關せる事物に付て適當に教訓せらるゝ事に依つて、神に對する崇敬の精神を理解し自得するに至らん。而して禮拜に關する事物とは主として神の家と神の言葉と、教役者(日曜學校長教師を其内に含める事は言を待たず)と普通の禮拜の形式より成る。

小兒が日曜學校の場所と之に伴へる事物に關して有する觀念は、教會の禮拜に對する彼等の感情を定むるものなり。若し彼等にして日曜學校の場所と其秩序を重もに社交的性質のものとして、其中に殆んど或は全く禮拜の性質無しとせば、日曜學校より教會に移る時彼等は全然異なる空氣に入るの感ありて、其變化は彼等に害あらん。されば日曜學校は愉快に且適當に社交的なるべく、且善き意味に於て自然な

るべしと雖も、敬虔の心能く行き渉り、且禮拜の場合に於て特に崇敬の心深からざるべからず。斯く禮拜の形式を日曜學校に用ゐる事に依つて、彼等が莊重なる教會の禮拜に入るに當つて、過渡の際に能く扞格齟齬の感無からしむる事を得べし。此點に關して日曜學校の眞實の目的は小兒をして能く禮拜の意義を解し、心より喜んで參列せしむるよう導くにあり。

小兒は神の意志の啓示として、神の言葉に對する適當なる尊敬に習はしめざるべからず。斯は固より書籍に對する迷信を養ふべしとの意にあらす。之を偶像となすは寧ろ其與へられたる眞目的を破壊するものならん。されど其内容の神聖と其適用の高き意義に對する適當の尊敬は、眞純にして思慮ある宗教に必要なり。兒童又は青年をして聖書を輕ろんじ、時に之を瀆すに至らしむる事世に珍らしとせず。此は社交場と日曜學校の教場にて、己が才氣を現はさんと力むるより來ること多し。此神の言葉の誤用は大に憂ふべきものにして、唯日曜學校に於ける聖書の尊敬と、之に

關する小兒と青年への教訓能く其風習の蔓延を拒ぐを得べし。斯る風習の蔓延を拒ぎ且之を矯正するには日曜學校禮拜に於て之を尊重し、且之に關して兒童と青年に正しき教訓をなすより有効なるはなし。

教役者に對する尊敬は最も重要な事なり。長者と尊者、特に心靈的に卓越せるものに對する尊敬は、禮拜と頗る密接なる關係を有するものあり。人を敬はざるもの、特に其最も敬ふべきものを敬はざるものは、結局神に對する尊敬を欠ぐものなり。人中なる善と偉大に對する尊敬を我にも人にも破壊するは、不知不識之に依つて高きに昇るべき己が頭上なる梯子の階段を切斷し、自から登らず又人をして登らざらしむるものなり。されば教師又は教師の批評は一切家庭又は日曜學校の小兒の目前に於て避けざるべからず。彼等は批評の意味―若し之れあらば―を捕ふる能はずとするも、其精神を捉ふる事は易々たればなり。よし其人缺點多くとも教師又は教師なる其人の職分を深く尊敬せずして、濫りに之を批評するものは青年の指導者たるに

必要なる靈識を欠ぐものなり。否常識を欠ぐものと謂ふべし。教師教師は來り又去る。されど其職分は變せず。小兒と青年は人と職分を區別する事能はずして、其人を慢ると共に其職分を慢るに至る。されば家庭日曜學校又は其他の會合に於ける心なき批評の言は小兒の宗教的生命を害すること幾何なるやを知らず。

小兒と青年の禮拜の重なる要素は、歌に現はるゝ嘆美なり。教會と日曜學校の歌は、神學上の眞理を教ふる善良なる方法なく、又其最高の感情を印象する一層善良なる道なし。されば凡べての學生をして幾種類かの最も善き若干の歌を諳んせしめ、心情に銘記して之を忘れず、凡ゆる人生の經驗に之を思ひ出ださしむるは、頗る有益なるべし。小兒を導ひて第一等の讚美歌を暗記せしむるものは眞に其生涯の恩人なり。近年に至り日曜學校の歌に少なからぬ改良を加へたり。然して尙改良の餘地甚だ大なり。今や時勢は各派合同の委員を作り、凡べての教育の讚美歌、殊に日曜學校の讚美歌より、最も善く兒童及青年に適するものを精選し、日曜學校讚美歌を

編纂する事を要求せり。此編纂の粗笨拙劣なる冒險的創作を排斥すべきは勿論にして、寧ろ宗教的要求と高雅なる趣味の試験を経、教會の讚美歌の中に永久の位地を有せる歌と音譜を取るべきなり。然して眞に善良なる歌世に出づるに當つて之を加ふべし。斯くて此改良せる讚美歌を以てして日曜學校は歌の禮拜に依つて最も感化力の大なる禮拜を有すべし。又小兒と青年をして歌ふ事を練習して容易しく且正しく歌ふ事を得せしめざるべからず。且又其訓練に當る所の熟練にして深く音樂に達せる訓練者を得ざるべからず。此完全なる指導者の下に導れて、歌に熟練する事は、何物よりも小兒と青年をして一般信者と禮拜を共にするの心を起さしむべし。然して彼等は一派の禮拜に對し興味を感じ且利益を受くる時青年の自然の感情より進んで禮拜に參せんことを願ふべし。歌は本來宗教的禮拜に於ける青年の要求なり。老人は歌ふ能はず、青年は歌はざる能はず、日曜學校に於て訓練せられたる彼等の歌が如何に今日甚だ衰へたる會衆の歌を盛ならしめ、禮拜をして興味あり、且人を惹

ぐの力となるべきかは復説くを要せず。唯此一事小兒の教會禮拜參加の問題を解決するに足るものあらんは予の信ずる所なり。

禮拜の精神と習慣の發達の爲めに、小兒は教會に對する適當の敬意と正しき服従を教へられざるべからず。斯は先づ教會の歴史的建设と其目的と其事業の範圍に關する單純なる教訓に依るべく、稍後に宗派の側面より之を教ふべし。教會の此側面は頗る活氣を有し、其研究は最も興味あり、且教訓に充てり。現今宗派を以て狹隘なりとし、従つて靈的生命と靈的事物を局促ならしむるものなりとするの傾向甚だ著し。此種の濶大は常に殊に害あり。世に生長に由つて來る所の濶大あり。是れ全く稱讚すべきものなり。然れども又單に同一物体の擴張より來る濶大あり。此種のもは其内容を失ふ事に依つて擴大す。明かに言へば擴がる事は其れ丈薄くなる事なり。予は正しき宗派主義に對する無頓着は此類ならざるかを恐るゝなり。何れの場所何れの地方も同様に愛する事を公言して憚らざる者は、浮浪人の愛國心な

り、此の如く如何なる宗派も皆己に對して異なる事なしと言ふものは、守ることの足らざる事を示せるなり。今日の宗派は甚だ望ましからぬ事の存するにも拘らず、尙救の經綸を成就する爲めの神の教會の部署に外ならず。

されど吾人は又過大なる宗派心の常に危険なる事を知らざるべからず。偏見私情の弊害は一に此傾向より來らざるなし。宗派心の増長は膨脹的世界的の基督者を作らずして、教會的フキリステ人を出さんとする、斯る宗派主義の「我地より上げられれば、万民を惹き我に來らしめん」と語り給へる主の名と精神に於て排斥抑壓すべきものなり。

第十三章 普通教育と宗教

家庭と日曜學校と普通學校の三者の密接なる關係を有するや、前二者の目的は宗教的訓練に最も適せる普通學校の協力無くして到底充分に達せられざるものなり。今や我國普通學校に於ける道德宗教の教訓に關する一切の問題を、詳細に再考すべき時至れり。予が此問題に關して簡單に叙述するは、必ずしも興味と利益なしとせざるべし。

教會と國家の有機的一體論は既に陳腐に屬し、滅絶すべき運命を有せるが如し。經驗は兩者の結合の時に教會の不利を來し、時に國家の不利を來し、時に兩者共に害を受けたる事あるを示せり。兩者の關係の漸次に解けて今や其分離殆んど全からんとするに當り。其關係の決して復興せらるゝが如き事無かるべきは、蓋し疑なからん。

されど茲に兩者に大なる損害無くして之を看過し若しくは閑却し能はざる、教會と國家の本來の一致あり。教會と國家の關係は世人の思ふよりは遙に密なり。こは少しく兩者に共通なる要素と利害を調査せば容易に其然る所以を知らん。先づ第一に教會の會員は國家の市民たる事なり是を以て兩者の財源亦同一なり。然して國家の官吏は教會の役員ならざるも、多くは會員なり。是れ寧ろ當然の順序なり。且又兩者の懐ける道德的目的亦甚だ相同じ。國家の立法と行政は教會の方針と殆んど同様にして、國家立法の大部分は人の行為の道德的條件を安全にするにあり。然して教會の努力する所亦茲に在り。固より教會と國家は其途を異にし、又稍其動機を異にすれども、大体に於て同一の實際的結果に達す。若し一朝國家に腐敗の事實起り來らんか、其事實と其事實の原因の爲めに、識見ある教會員は深く憂へん。國家の腐敗は市民の腐敗より來り、市民の腐敗は、固より教會之を來らす事なしと雖ども、之を拒ぐ能はずして其毒を蔓延せしめたる事に對して、教會其責任の大部分を負は

ざるべからず。教會は神より任命せられたる人民の道德的・心靈的・生命の護衛者なり。然して今日何れの文明國に於ても此使命を達するに必要なる各種の事業の爲めに、自由なる天地開かれたり。國家の文明は宗教の反射なり。若し譬喻的に之を言はば、國家は月にして宗教は太陽なり。前者の光は後者の光より來る。然るに此等一致の要素存するに拘らず、教會と國家の間に反對と云ふまでに至らざるも、一事の扞格齟齬するものあり。即ち宗教教育の問題是なり。此扞格齟齬は其本來の性質より來れるにあらず、一時の變體なりと雖ども、其關する所甚だ深く實に容易ならざるものあり。是れ國家と教會の當事者の深く注意すべき所なり。然して此問題に關し凡べての大問題に存するが如く兩極端の論者あり。其主張する所各一理なしとせされども各偏する所あり未だ以て此問題を解決するに足らず。教會の側面に立つ論者は國家を以て經濟工藝の教育以外如何なる教育事業をもなすべき本來の權利を有せずとし、教育は師父的・教會的の性質を有する事を主張す。此

主張は多くの眞理を有せりと雖ども又一の誤謬を有せり。予が既に先きに論せる如き教會と國家の本質的一致の諸要素を認識せざればなり。其人を同ふし其財源を同ふし其目的を同ふして、兩者の結合頗る密なれば、教會は國家に大なる勢力を及ぼし、國家を通じて其自から爲し能はざる價值ある教育事業を爲し遂ぐる事を得べし予が斯く言ふは教會に普通教會に依つて其全國民に適當なる宗教的教育を與へしむる權利の要求を抛棄すべしとの意にあらず。而も教會は國家と位置を争ふて之に勝つを要せず。唯宗教道德の事に關して親切にして力あり。之を支配する勢力となれば可なり。又一方に國家の側面に立つ所の論者あり。普通教育は教會の領域にあらず、其財力は之を爲すに足らず、其機關は其目的に適せず、且普通教育の目的は完全なる市民を造くるにあれば當然國家の事業に屬するものなる事を主張す。此論固より眞理の承認せざるべからざるものあり。されど其中に大なる誤あり。既に之が爲めに幾多の不幸なる結果を來せるは識者の共に認むる所にして、此議論若し世に

勝利を占めば其禍の及ぶ所測るべからざるものあらんとす。蓋し單に世俗的教育の組織—即ち人の宗教性發育を顧みざるもの—を以て、道德堅固にして頼みとするに足る市民を造り得べしとするは、全然誤れる所の有害なる意見なり。現時の有力なる心理學者及教育家は此點に關して、教育の第一の目的に知る事にあらず、有る事あり。智識と知能の學習發達にあらず、最高品性の生産にある事に一致す。彼等の或ものは純粹なる心理學的見地より宗教性の發達無くんば何人も教育せられたる人と認めらるべからずと極言するに至れり。

チエー、ビー、モンロー曰く教育の成果に就て吾人の須らく問ふべき所は、小兒は何を學びしかにあらずして、小兒は如何に成りしかにあり。教授ウキリアム、ゼームス曰く教育は之を行爲と行爲の傾向に關する體達せる常習の組織と呼ぶの外、他に名づくべき所以を知らず。ハーバート、スペンサー曰く吾人を完全なる生活に入らしむる事は、教育の須らく成すべき職掌なり。エツチ、エツチ、ホルチは其教育

哲學に説いて曰く、教育とは肉体的精神的に發達せる自由にして意識ある人を、知識と感情と意志に於て立派に神と調和せしむる永遠の歷程なり。博士クコラス、モルレイ、パトラーは教育は人類の靈的所領に漸次調和することなりと言ひ、尙進んで宗教的遺産を凡ての小兒が相続すべき五種の遺産の一に數へたり。

此等學者が宗教性の發達は現時の教育哲學に於て人の生命の完全なる教育の爲めに必要な事を説けるのみならず、世俗的普通教育に従事する重なる教育者も亦其經驗に照して學者の所論と同じ意見を主唱せり。彼等の或者は普通教育と宗教の分離は不幸なる結果を齎せる事を公言して憚らず。學生の宗教性發育の手段と機會なきが爲めに善良なる市民を造くるの目的を達し能ざる事を明言せり。是れ普通教會制度の目的とせる所にあらずや。

或は言はん、宗教々育は市民教育に必要ならんも、家庭と日曜學校の教育にて充分ならんと。家庭と日曜學校は固より深く意を其教育に注ぐも、日曜學校に於て之を

補助するの要あり。原來教育は世人の常に言ふ如く單に生活の準備にあらず。教育其自身實際の生活なり。小兒と青年が彼等を一層大なる社會に結合する家庭以外に存する關係を體認し活用する、人生の發達期にある時ほど（即ち普通學校に入るとき）強健なる道徳を啓發鼓動する爲めに宗教を要する事最も切なる時なし。加之普通學校に宗教々育無きは家庭に於て受けたる感覺を否定せんとするの傾を生ず。新なる手に其指導を托せられ新なる關係に入れる小兒は、宗教が學校に於て閉却せらるゝを見て、宗教は唯家庭の狭き範圍の事柄なるかとの感覺起らん。斯くて漸く宗教を輕視するの風を生し社會の一切の關係に於ける事實又は勢力として之を見ざるに至らん。且や學生の多數恐らくは其過半は其家庭に宗教々育無く、若普通學校に於て之を受けずんば全然宗教的教育なきものたらん。是れ實に各種の普通學校に宗教々育無かるべからざる有力なる證據なり。

合衆國の普通學校に於ては日々の開校の場合に聖書を讀み聞かす事あれども、此の

如きは學生の道徳宗教的訓練の要求を充たすに足らず。他の學科を精密に研究する如く宗教々育の一科を設け、組織的に教育するの必要あり。書籍は多きを要せず。唯他の學科と同様に教育學の法則に従つて選擇せられ教授せらるゝを要す。而して聖書が其學科の主たるべきは言を待たず。蓋し聖書は之を一個の文學とするも比類なき文學なり。其中に物語あり、傳記あり、歴史あり、詩あり、哲學あり、倫理の教訓あり其趣味多様にして盡くすべからず。而も單に之を文學としてののみ研究する事は、甚だ貴むべきも未だ充分なりと言ふべからず。其研究の最高目的は凡ゆる人生の義務を聖書の見地に依つて遂行せしむる、眞道徳的宗教的品性を建設するにあり。之が爲めには神の命令明かに認識せられ且感せられざるべからず。其靈的勢力充分に實現せられん爲めには、單に偉大なる書籍として聖書を見るのみならず、神の言葉として之を見ざるべからず。

予は上來論述せる如く一層完全なる宗教的教育的の普通學校に採用せらるゝ事を熱

望期待すれども、今日急に之を見る能はずんば、二事の注意すべきものあり、亦以て幾分の時弊を救ふに足らん。第一は即ち小兒の教育は其生活の實例と教訓の高き道徳的調子を以て品性の生活の正しき見解に小兒を導くべき高き人格を有する教師にのみ委任さるべき事なり。教師の性格に體現せる聖書は、それが目的とする一切の道徳的宗教的目的の成就に最も力あるものなり。而して第二に現時の制度に於て與へられたる範圍に於て能く之を利用し最善の宗教的教訓を施すにあり。

第十四章 結 論

教授ブルース曰くなべて基督の基督教に歸るは、青年の宗教的訓練に重要な結果を生せん。現今教會の此方面の事業の甚だ振はざるは思ふに過渡の時代にあるが爲ならん。

此困難は實に根本的にして、教會の一の狀態より他の狀態に移るが如き比にあらず。是れ子が先きに論せる如く教會が堅く訓練てふ其大職分を保持せざりしにあり。教義は教會史上の重要な位地を有せりと雖も、而も教義は習慣、品性、生命を造らず。是等は唯獨り訓練にのみ依つて得らるべきものなり。然して教會存在の目的茲に在れば、教會が青年を遇する唯一の道唯訓練に在るを知らん。予は教會が其内に存する家庭日曜學校の如き諸種の制度と之と關係せる普通學校教育を適當に利用せば、一層成功ある方法を以て主に依つて委託せられたる大仕事を

成就し得べきを示さんと力めたり。されど斯は家庭と日曜學校が教會の全體なりとの意にあらす。是等は唯其成就すべき明白なる職分を有する完全なる教會を造り出す手段たるのみ。

青年を訓練するは其重なる職掌なりとの教會の充分なる認識は二の最も重要なる結果を生ず。一は訓練てふ概念に依つて要求せられたる建築法の創設にして、他は教育上の目的を主とせる講壇の善用なり。

經驗ある人は如何に家族の快樂と幸福が其住宅に影響せらるゝ事の甚しきかを知る。人の住へる家てふ意義に於ける家庭は知識的・道徳的・生長の問題と共に、肉體的健康と快樂に深く意を注がざるべからず。人間生活の物質的側面に於て之よりも重要な問題世に少なし。教會家庭（教會を一個の家庭と見做せるなり）に於ても亦然り。

然り。其精神的側面に意を注ぐと共に又物質的側面に深く心を用ゐざるべからず。然るに世に是ほご世人に閑却せられたる問題なし。教會は今日に至るまで青年訓練

の爲めに必要なる内部の粧飾整理を擱きて、要もなき外觀に莫大の金錢を費せり。小兒の宗教的側面に於ける興味・生長と共に、教會堂建築に人意を強するに足る改良の起り來りしは事實なり。然れども其改良甚だ散漫不秩序にして且局部的なり。吾人の要する所は斯る姑息の改良にあらずして、教會堂建築の全き改革と、凡ての青年の訓練に充分に適合せしむることなり。若しも教會にして眞に基督の學校たるべくんば、教會は宗教の校舎たらざるべからず。且教會の訓練、其時代の複雑なる社會組織に依て要求せらるゝ宗教的活動の凡ゆる部面に及ぶべきものならば、其場所と設備の之に應ずるもの無かるべからず。教會の第一の急務が青年の宗教的教育に在ることを世に教ふるには其建築を變じて此目的に適合せしむるより効果の大なるは莫し多の變化は此方針に依つて成され、新會堂の多數は小兒の存在と其權利と、神の王國に於ける關係よりの要求に多少意を用ゐて建築せられつゝあり。されど斯は單に個々の團體の事にして、往々無智不識なる地方の主任者の意の儘にせらる。

若し一の宗派に於て有力なる委員を選んで精細なる調査を遂げ、如何なる家屋が最も能く教會の事業の爲めに適するかを評定せしめば、會堂改良の事始めて緒に就かん。少くも會堂擴張局は小兒の爲めに適當なる設備を爲さざる計畫を採用する事なかるべし。斯くて僅かに其工費五百弗を出でざる小會堂も日曜學校の幼稚部の爲めに之を閉づれば別室を爲すべき一部分を有するに至らん。然して斯る助力と指針なき無め、幾百幾千の團體は新思想の進歩と共に十年を出でずして其會員の熱望せる事業を成すに不適當となり、復莫大の工費を投じて再築せざる可からざるに至るを思はずして、舊式の會堂を建築しつゝあり。今後小兒の宗教的訓練を眼中に置かざる團體の忽ちにして衰微し、其建物の無用なる時代後れの會堂となるべきは、瞭然火を見るよりも明なり。

小兒と青年の宗教的訓練に關して、一切の外部的設備の上に立つ（よし外部的設備も其位置に於て重要なりとも）他の職分あり。即ち講壇の教訓是なり。講壇、教會

の最高頂と認めらる。永遠の生命の言葉茲に述べられ、基督者の思想と經驗の標準茲に定まる。個人と團體の倫理的觀念を整ふる者は多く講壇に在り。されば講壇は教會の重なる教訓的機關にして長く然らざるべからず。固より教會は他の機能を有せざるべからず。而も講壇は其首たるべきなり、少くも其下に在る一切の機能に摸型と方針を興ふべきなり。且現時の要求に適當に應せん爲めに、散漫なる要素除かれ、一層組織的なる方法採用せられざるべからず。凡ての團體は教訓と啓發と指導の精細なる計畫を要求期待せり。説教者は基督の教會の教育的啓發的勢力の指導者として斯る計畫を作るに足るものたらざるべからず。詳言すれば其品質に於て眞に教授的なる組織、説教者の禮拜の計畫の底層に存せざるべからず。講壇の事業の計畫高等學校若くは大學の講座の如く、教育的にして且組織的なるべし。こは説教者としても又指導者としても、牧師たるもの、個人的勢力の爲めに必用なり。民は智識の缺乏の爲めに亡びたりてふ言葉ほど、舊約聖書中に意義深遠なる言葉なから

ん。一時のテロ帝の盛宴は民の日々の食物の要求を充たすに足らざるが如く、散漫なる方法に依れる珍珠佳肴、教訓の要求に應ずる能はず。講壇の眞目的は神の信仰と智識に於て人を建造するに在り。然して説教者は神の目的を全ふする爲に、最も眞實なる意義に於て一切の聖なる事物に關する教師たらざるべからず。最大説教の日は過去より未來に存する事は疑ふべくもならず。然して今日に至るまで講壇政策を定めし其とは、甚だ大に異なる要求の存する事を知らざるべからず。

予が上來論述せる教會の教育的方針は講壇の題目を定むる標準たるべし。人間の最も深長にして且恒久不變なる興味は、生活の普通に關係に根ざせる事を認識し、其觀念に依つて爲す所の説教者は、長く其聽衆の信頼と尊敬を失はず。若し一層完全なる教育的組織を以てせば尙然らん。此講壇の調子の變化は人氣問題を以て一時の喝采を博する事を力むる所謂大説教の製作者又愛好者には失望を來たさん。されど聽者の徳を建つる事に於て説教の品質に大なる變化を生せん。凡そ人の興味を動か

すもの人の生活に關するものより大なるは無く、若し此等の問題にして明白なる解釋を興へられ、且細心と同情を以て説かれんには、長く歡迎せらるべく且人を益する事多からん。

此教育的計畫を有する講壇に於ては、婚禮、家族、兩親の責任と機會、義務、個人と家族の社會に對する關係、個人と家族に對する社會の義務(殊に民事的なる義務)等の問題を明らかに且的切に説かれざるべからず。此等の一般的の題目は多く小兒の價值、又其興へられたる材能を發達せしむべき人間の權利の如き問題を包含せり。又人の宗教的社會的安全と直接に相關せる社會的民事的問題を必然包括せり。甚だしき關係に於て斯に問題を説くは、動もされば現時彼等の議論の特質たる有害にして之を斥けざるべからざる感情主義より彼等を救ふべし。加之家庭と早き教會生活は社會的市府的生活の困難なる問題の凡てにはなくとも其多くを解決すべき境涯なり。是に於てか講壇は教會内なる凡ゆる勢力を正しき方向に導く事に依つて、

上に列記せる問題に關して一の支配力たるのみならず、其多くは困難なる問題となる事なくして防止せらるべし。例へば矯風問題が教會の率先して唱導せるによつて輿論の大勢力となれるが如し。時には青年の聽衆の前に火山の爆發するが如く万丈の光焰を擧ぐるも亦益あらん。されど一時代の少年に組織的教訓を施すは訓練せられたる國民を造くる唯一の道にして、其社會的習慣は直ちに家庭と學校の習慣を反映し、且之を強むべし。主イエスの最も意義深長なる語の一は、絶へず此問題の全範圍を照せり。即ち此世の子等は彼等の時代に於て、即ち事物の順序に於て光の子等よりは賢しとの語是なり。此語の大鉢の意味は、此世の子等は目的の爲めに適當なる手段方法を取るてふ事にあり。彼等は彼等が活動する境涯に於て、一層其處に行はるゝ法則に従ふて事を成すなり。換言せば其結果を求むる道一層合理的科學的なり。彼等は散漫なる方法を以て強固なる結果を得、間歇的勢力に依つて恒久なる成功を擧げんと望まず。若し普通教會に於て取る方法商業界に用ゐられなば、破産

は踵を廻らさずして至らん。而して政治界に於てせば國民は之を解くに由なき恐るべき困難に陥らん。

現時の最大經濟的要求は、教會の政策が其同情に人間の凡ゆる利害を包擁するに足る程廣潤に、且之に依つてのみ人の中なる神の國完成せらるべき、生命と成長の法則に一切の吾等の活動を一致せしむべき運動の計畫を建て得る程に賢明ならん事なり。イエスは吾人に之を鼓吹し且一般の計畫を與へたり。彼は明らかに搖籃の中に神の王國存する事と、教會の重なる事業は此搖籃の大衆を捕へ之を神の國に保ち、生命と成長の法則を以て其生長を導き、以て完全なる成人たらしむるにあるを教へたり。神が聖人と人間の中に明記せる此命令が、個人と家族と團體と人類と其範圍の如何を問はず、播種と收穫の譬喩の示せる一般の結果を來たさん事疑なし。固より豊饒なる田野にも凶作は免れずして、其來る事甚だ稀なりとは言へども豊凶共に自然の法則なり。されど精神健全なる人は善良なる耕地に稀れに凶作あるを以て、

播種と耕作の方法の收穫を得る手段たるを疑はざるが如く、時に教育的方法の効果を擧げざるを見て、其計畫を否定する事なし。

予は最大説教の時、過去よりも將來に存すべきを言へり。斯は説教者と會衆の關係に於て、其最大勢力の時期は過去よりも將來にありと云ふの意なり。此書の説ける教育的方法に依れば、教職の天地深くせられ廣くせらるべく、從ふて一層大なる統率者を要すべし。世界は速に説教者の大にして且方ある職分を認識すべく、凡ゆる方面に於て人類の向上進歩の爲めにせる機關の首領として適當なる位置を之に與へん。斯くて此事此高き地位を占むる人の階級を高め、其神聖にして有用なる職分を全ふるに必用なる用意に相當の影響を來さん。教役者の事業は最高教育事業にして、人間生活の本源を其手中に握り、獨り其宗教のみならず其社會的方針をも定め、説教者は最も眞實なる意味に於て王國建設者たる事認識せらるゝに至らば、教職は教會歴史の何れの時代にも見ざりし最高才能と最大學識と最強勢力の青年の心を

引かん。且此方法は學識あり才能ある教職外の信徒を活用し、凡ゆる方面に於て神の國の爲めに其才を盡さしむるの道を開くべし。

予は本書に於て神の國の人類と其範圍を同ふし、専ら内よりの生長に依つて來り、其最後の勝利は他の宗教と比較して基督教の大なる生長力に依つて確實疑ふべからず、生長の法則による最良の結果の爲めに人の宗教々育は夙く始めざるべからず、此目的の成就の爲めに始めは家庭の空氣後には教訓と訓練最も大切にして、日曜學校と普通學校其後の訓練に重要な位置を占め、而して此等の教育的機關と事業の合理的なることは甚だ遠くしてイエスの特種なる教に基ける事を説けり。謂ふ所の教とは即ち搖籃の中既に王國ありてふ事にて、此教より萬國の民を弟子とせよとの彼の命令を全ふせんには、正當にして普遍なる法則の活動の下に神の王國の凡ての要素を訓練して之を成熟せしめざるべからずとの教生じ來る。予が宗教的生長の法則に普遍なりと言へるは、決して除外例なしとの意にあらず。

種よりの生長の法則は個人と團體に於ける王國の擴張發達に關する不變の教義なれども、復自由意志の法則あり。如何なる訓練も自由意思の選擇と其責任を人より取り去らず。宗教的生活の各要素に於て善く訓練せられたる人も時に罪の生活を選びて之を爲し、何等の訓練なき人善を取つて之に勵む事あり。然れども是れ除外例なり。通則は之が爲めに變せず。幼時より訓練せらるゝ事は之に達する最も容易にして且確實なる道なることは他の事物に於けると同じく宗教に於ても眞實なり。小兒に聖なる先入の見を建設するは兩親と教會の最高義務の一なり。斯は兩親が青年に負へる負債なり。朽ち果つべき遺産より遙かに貴き其先輩の經驗と知識より出で來る兒童の正當の遺産なり。適當なる事情の下に此方法は世人の屢説くが如き恐るべき偏狹を來す事なく、又個人主義に好ましからぬ制限を生ずる事なし。斯は實に最大自由と、淺薄てふ代價に依つて買はれたる者ならぬ寛厚に達する坦々たる大道なり。

搖籃の中なる王國てふ教は大にして且改革的なる意義の結論を含めり。其或ものは神學的にて、或ものは哲學的なれども、重に經濟的なり。即ち教會は其存在の實際的目的を成就する爲めの運動方法に關す。例へば教會は矯風、社會の純潔、商業道徳、政治の正義、善善問題等に力を用ゐざるべからず。然れども人間生活の大部分を掩へる此等の大問題は抽象的に決定せらるべきにあらず。又既に賤き利己主義の支配の下にあり、教會が排斥せんとする罪惡に浸染固定せる成長せる人に、如何に強く訴ふることも益なからん。偉大にして確信あり勇氣ある語に充てる説教は、社會の倫理的調子に影響すべく又或個人を罪惡より救ひ出さん。されど社會を救ふ能はず。年々歳々五千萬の小兒は世に生れ來る事は、此等の問題に新なる解釋を與へん。救はれたる社會、新にせられたる人類の希望唯茲に存す。近世教會の最大經濟問題は如何にして吾等は民衆に觸着すべきかにありき。然して今も尙然り。此大問題に對する眞實の答は是なり。曰く搖籃の中に彼等に觸着せよ。然らずんば汝は遂

に全く彼等に觸着し得ざらん。

兒童の宗教終り

明治四十年八月廿二日印刷
明治四十年八月廿五日發行

(定價金四拾錢)

譯者 大谷 虞

發行者 堀田 達治

印刷者 ゼー、エル、カウエン

發行所 東京市京橋區銀座四丁目一番地 教文館

印刷所 東京市京橋區銀座四丁目一番地 教文館印刷所



不許複製

○^エ英^リ語^オ朗^ツ讀^ト法^{先生著}

Hand Book of Oral Reading by W. Elliott.

定價金 二貳拾錢

○^フ英^ラ語^ン研^ク究[、]の^ミ葉^ユ

Talks on the study of English by Prof. Frank Muller.

定價金 六十五錢

○^ハ英^イ獨^ゼ逸^一語^{先生著}獨^案案^内

Guide to the study of German by Prof. R. Heise.

定價金 六十五錢

○^デ英^ニ豐^ン臣^グ秀^{氏著}吉^の傳

A New Life of Toyotomi Hideyoshi by Walter Dening.

定價金 十二錢

○^デ英^ニ昔^ン時^グの^{先生著}日^本

Japan in Days of Yore by Walter Dening.

定價金 二圓五十錢

○^チ英^ヤ單^{ール}純^{ス、}生^ソ活^グ

Simple Life by Charles Wagner.

定價金 六三十錢

○英ス 先生著
英詩軌範

Specimens of English Verses by W. G. Smith.

定價金七十五錢
郵稅八錢

○英シ
基督之事實

Fact of Christ by P. Carnegie Simpson.

定價金四十五錢
郵稅四錢

○英オ、エス、マーデン氏著
ウインニング、アウト

Winning Out by O.S. Marden.

定價金二十五錢
郵稅六錢

○英哲學博士工藤東三郎著
孔夫子の倫理

The Ethics of Confucius by Dr. T. Kudo.

定價金三十錢
郵稅四錢

○青山學院教授 山田寅之助先生著
埃及旅行談

聖地旅行談

定價金五十錢
郵稅八錢

○根本日 正君譯
力

根本日 正君譯

定價金二十五錢
郵稅六錢

○根本 正君譯
世界最大のもの

渡邊房吉君譯

定價金二十五錢
郵稅二錢

○青春の危機

原成吉君著

定價金三十五錢
郵稅六錢

○人類兄弟主義

柏井園君著

定價金二十五錢
郵稅六錢

○ド ラ モ ン ド 傳

柏井園君譯

定價金四十五錢
郵稅六錢

○平和之福音

佐藤廣吉君著

定價金四十錢
郵稅六錢

○幸福の生涯

山鹿旗之進君譯

定價金三十五錢
郵稅六錢

○哲學の諸問題

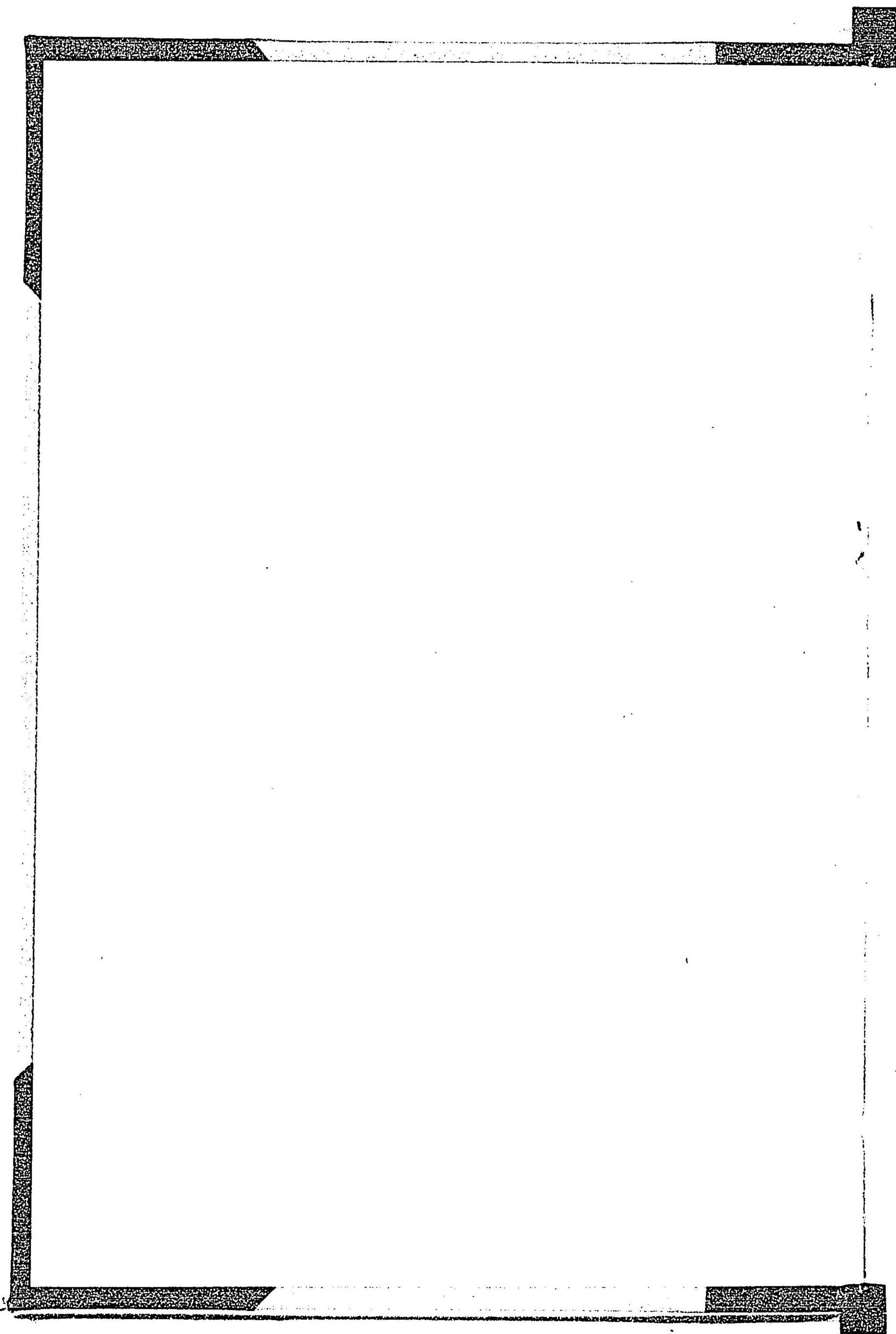
神學士田中達君譯

定價金三十錢
郵稅四錢

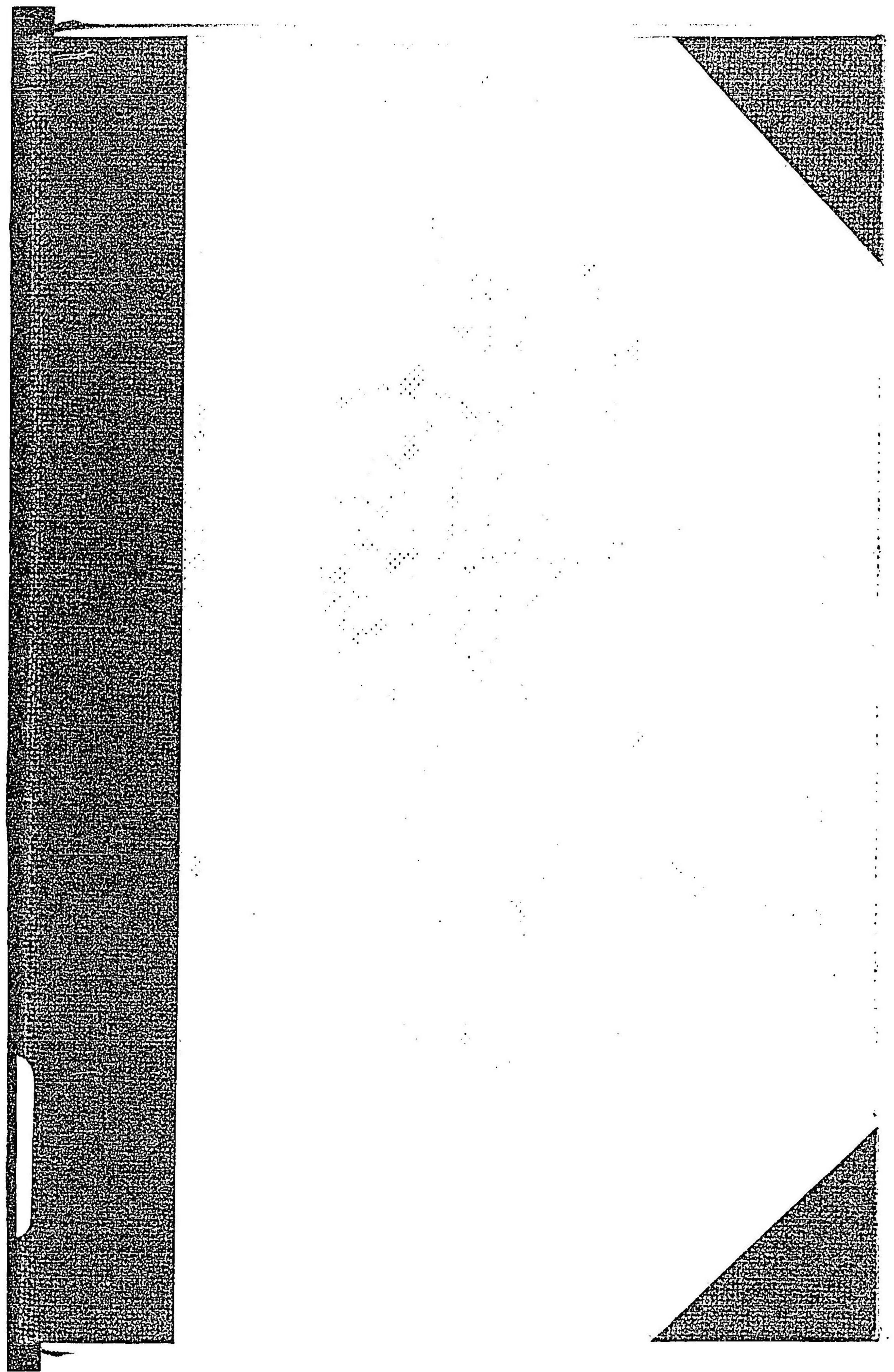
○神の觀念

神學士田中達君譯

定價金三十錢
郵稅三錢



A vertical line of text or a page number, which is mostly illegible due to the low resolution and high contrast of the scan. It is located on the right side of the page.



325

27

020690-000-3

325-27

児童の宗教

ジェームス・アトキンス/著

M40

ABI-0507



36.12.19